

市長記者会見記録

日時：2023年10月17日（火）14時00分～14時58分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

《新しい本庁舎の業務開始について》

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

それでは、早速質疑に入りますが、進行は幹事社の方にどうぞよろしく願いいたします。

【東京（幹事社）】 幹事社の東京新聞です。ここでの定例会見、今回が最後になると伺っております。先週は第2庁舎で議場閉場式もありましたけれども、改めまして、本庁舎への移転、一部業務ももう既に始まっておりますけれども、市長の思いをお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 大分業務が分散しておりましたので、この間、大震災のような被害がなくよかったなと思っておりますが、これで新庁舎に移ることによって防災機能が非常に高まりますし、そういった意味ではよかったと思っておりますし、より効率的な業務に励めるようにこれから頑張っていきたいと思っております。この会見の中でも、先ほど資料を見ましたら、ここで195回会見をやっていたということで、いろんな会見がありましたけれども、動画配信を開始したりというのもここから始まったことでありますし、より開かれた市政ということで取り組んできたという自負はあります。これからのそういう姿勢でやっていきたいと思っております。

【東京（幹事社）】 市長御自身のお引越しの準備はいかがでしょう。

【市長】 全くできていないので、週末、時間は取ってやろうと思っております。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

《児童生徒の問題行動・不登校等の調査結果について》

【共同（幹事社）】 共同通信社です。昨日、川崎市内の小中学校における児童・生徒の問題行動等の調査結果が公表されましたが、暴力行為の件数であったりいじめの認知件数が過去最多となりまして、要因としては、学校側の早期の対策であったり対応

に取り組んでいることもあるかと思いますが、市長としてのお受け止めと、あと学校等への支援など取っていききたい対応があれば聞かせてください。

【市長】 全国的に認知件数が増えているということで、認知件数自体はしっかりと捉えているという見方もできますので、そのこと自体をどうこうということでないんですけれども、ただ、認識している数自体が増えていること自体は非常に深刻な問題だと受け止めています。要は、解決率というところでも、川崎市の場合、非常に高い部分はありますが、一方で解決されていない部分をしっかりと捉えていかなければならないと思っています。そういった意味で、やはり長引くと、不登校にしてもいじめの話にしても長期化するという傾向があることはもう分かっているので、一刻も早く初期対応、介入していくということがとても大事だと思っています。そのために、いろんな関係機関とも連携をよくしながら、学校に行きづらいだとか、あるいはそもそもいじめでつらいという状態を一刻も早く解消できるように、学校の体制もそうだし、学校だけではない連携を強めていかなければならないと思っています。

《浄水装置の導入について》

【東京（幹事社）】 もう一つお伺いしたいんですけれども、昨日、上下水道局から会見がありまして、その中で、日本原料の市長の表敬訪問の件で、最初の平成26年4月9日の訪問時に、社長から市へシフォンK3システムについて導入を求める発言があり、それに対して市長が、なぜ市の浄水場に入れられないのか、上下水道管理者にも話をしてみると応答したという記録があったという説明がありました。この発言について、9年前なのでなかなか記憶に残ってない部分もあるのかと思うんですけれども、どういう真意だったのかということをお説明いただけますでしょうか。

【市長】 私も、いわゆる摘録というのを見て、ああ、そういうふうになっているのねということを確認いたしました。摘録ですので正確な言い方ではないかもしれませんが、そういった趣旨のことを言っているのは自分自身でも確認いたしました。摘録に残っているということはこういう趣旨のことを言ったんであると思っています。なぜ市の浄水場に入れられないのか上下水道管理者にも話をしてみるとという発言をしていると言っていますし、表敬訪問後、私から三浦副市長にも話をしておいたほうがいいと、少し検討してみたらどうか、私も上下水道管理者に伝えるという発言をしているとメモが残っていますので、そういう発言をしているんだと思います。一般的には、私のところにいろんな表敬をされることってありますし、実際に見に行ったりということはたくさんあります。いろんな新しい技術だとかというのは紹介されることが多く、こういったものが導入できないか検討してくれという話は非常に日

常的な言い方である話であります。それを検討してくれ、これを購入してくれという話は、技術論が分からない私としてはあり得ない発言ですので、そう言ったことはないということでもありますけれども、検討してみてくださいということをしたことは事実だと思えます。

【東京（幹事社）】 その後、上下水道局からシフォンK3システムの導入を促され、見送った経緯について説明があったということなんですけれども、そのときのことで御記憶にはありますか。

【市長】 それは全くありません。シフォンK3システムの話ですよ。だから、長沢浄水場の話というのは、このとき、4月9日には初めて私聞いたと思うんですけれども、実証の結果について話をされて、導入してほしいという話があり、そこで、なぜそれができないんだろうかと、技術的なことが分からない中でそういうふうに、どうしてなんだろうという問いかけをしているんだと思えます。上下水道管理者にも聞いてみるという話をしているんだと思えますが、それについては、結果どうなったのかというのは私は承知を……、結果というか、検討の結果がどうなったのかというのは記憶にありません。ただ、結果としては、シフォンK3システムは導入に至らないということですので、私が検討はどうなっているのと言ったことについては結果はバツだったということでもあります。

【東京（幹事社）】 失礼な質問になってしまうかもしれないんですけど、バツだったということをおっしゃって、じゃ、別の製品でもいいから検討してみてよみたいに食い下がったりされた御記憶はないということでしょうか。

【市長】 それは普通に考えて、ないですよ。そもそも、どういう仕組みかもよく、この15分の、10分か15分か分かりませんが、面会の中で、浄水場で実証をやったもの、これについてどうなんだと聞いて、恐らくどっかのタイミングで、私に報告があったかなかったかは分かりません。けれども、導入に至らなかったということですので、前の会見でも言いましたけれども、生田の浄水場に何で浄水システムが必要なんだと報道で思ったぐらいの認識でありますので、そういったことは言うはずもないと思えます。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

各社、お願いします。

【神奈川】 神奈川新聞です。ろ過装置の関係で。まず、2014年の面会に関してどういうやり取りがあったのか、もう一度教えていただけますか。

【市長】 平成26年4月9日の話でしょうか。

【神奈川】 はい、そうです。

【市長】 やり取りをですか。

【神奈川】 はい。

【市長】 まず、日本原料の社長から会社の歴史について話され、どういうものを国内の浄水場に入れているかという話だとか、海外の事業展開についてのお話がありました。それから、発展途上国での活動についても報告をいただいたところです。私から、商工会議所の山田会頭から貴社の取組について聞いたということはありませんけれども、恐らく国際環境技術展の際ではなかったかと思えますけれども、そういう機会じゃないと会わないというか、国際環境技術展で商工会議所の会頭と一緒に回るといのは通常やっていたパターンですから、そのときに多分、一緒に回ったんだと思えますけれども、日本の企業、ハイテクな技術が多い中でこういった技術を持っているところというのは、川崎の企業で感心しておりますということを書いて、台風で被害を受けたフィリピンの技術にも展開していると聞いていますという話、私が答えていると。それについて日本原料の社長さんが、長沢浄水場でシフォンK3システムを使って実証実験を行っていた、終了したと。その後導入も進んでないということで、市でも導入してほしいという話がありました。ということで、実証実験を行った川崎市で導入してもらわないと他都市でも導入が進まない。かわビズに参加しているのでそのネットワークも活用して展開したいと考えている。かわビズ自体をもっと活性化してほしいという、川崎の企業でもあるので川崎から発信していただきたいという話がありました。それに対して私が、なぜ市の浄水場に入れられないのか上下水道管理者にも話してみますという受け答えをしています。

以上です。

【神奈川】 面会後はいかがですか。面会後です。恐らく同席した職員に対して何か発言が……。

【市長】 それが先ほど言ったところです。面会終了後、三浦副市長にも話を入れたほうがいい、少し検討してみたらどうか、私も上下水道管理者に聞いてみるという話をしています。

【神奈川】 ありがとうございます。まず、昨日の上下水道局（※補記）の説明だと、どんなやり取りがあったかという話で、長沢浄水場で実験をやっていて、実験は終了したけど導入が進んでない、導入してほしいという願いがあったと。これに対して福田市長が、市の浄水場に入れられないのか上下水道管理者にも話してみると応答したということだけ説明がありまして、ただ、今市長が御説明されたように、実はも

っとやり取りがあって、昨日の上下水道局（※補記）の説明だけだと、単純に実証実験をやった装置に関して導入されなかったので導入してくださいという話があったということなんですけれども、これも実際に市長が説明されたやり取りを踏まえると、それだけではなくて、地元の企業だから応援してくださいというようなニュアンスも含まれてくると思います。齋藤社長の話を受けて、市長は上下水道管理者にも話をしてみるとまでおっしゃっているわけなんですけれども、齋藤社長の話をどういうふう
に受け止めたのか。記憶が定かじゃない部分はあると思うんですけれども、もし覚えていけば。

【市長】 9年前の話で、私もこのメモを見て、ああ、そういう発言をしているのだなと言っているの、そのときどう思ったかというのはもう計り知れないものがあります。ただ、一般論として申し上げますが、この企業に限らずですけれども、川崎市内の企業を応援するのは当然の話でありまして、川崎市の経済活性化成長戦略条例の中でもうたっているとおり、市内経済を振興するというのは私の責務でもありますので、そういった観点から市内企業を応援しよう、できるだけ活用しようということは常日頃から私、言っている話です。

【神奈川】 面会後の話なんですけれども、「少し検討してみたらどうか」、この部分なんですけど、これは補足するとすれば、どういう発言になりますか。

【市長】 これ、一言一句じゃない摘録なので、何て言っているのかって正直よく分からないんですけれども、受け止め方として、「少し検討してみたらどうか」と私が言ったということだと思えるんですね。だから、シフォンK3システムについてどうなんだということを言っているんだと思えるんですね。

【神奈川】 K3システムに関して購入の検討をしてみたらどうか、そういう意味ですか。

【市長】 いや、それも9年前の分かってない記憶で言って、これが今言ったかのような発言に取られるのが非常につらいんですけれども、また、それを切り取られるので。だから、単純に長沢の話がどうなのかということを知っているんだと言われて、そのことについてどうなのって知っているんだと思います。実にシンプルな話だと思います。

【神奈川】 どうなのという話だけではなくて、「少し検討してみたらどうか」とおっしゃっているわけで……。

【市長】 少し検討しても大分検討してみたらどうかというのでも、検討してみるは検討してみればという話だと思います。

【神奈川】　そうです。だから、その「検討」という言葉なんですけれども、何を検討してみればという話だったんでしょうか。この文脈からすると恐らく、日本原料の……。

【市長】　今聞いていただいたと思うんですけれども、今まで実験してきたんだから導入してもらえませんかと言われてるんですよね。その後、導入についてどうなのと、入れられないのか聞いてみると言っているんですから、その流れだと思います、ストレートに。

【神奈川】　聞いてみると検討は違うと思います。これは購入の……。

【市長】　いや、検討でもどっちでもいいですよ。検討でもいいです。

【神奈川】　購入の検討をしてみたらどうだという意味合いでよろしいでしょうか。

【市長】　購入？

【神奈川】　導入でもいいですけれども。

【市長】　導入の検討というのも一緒だと思います。

【神奈川】　よろしいですかね。

【市長】　はい。

【神奈川】　導入の検討をしてみたらどうかという意味合いでよろしいですか。

【市長】　うん。というか、技術論が分からない中で、先ほど一般論として申し上げたように、日常業務的にそんな話は言っていますから、こういうことって使えるの？ というのは当たり前の話で、検討できるの？ という話は毎日のようにあります。で、導入されなかったというだけです。

【神奈川】　それはまだいいですけど、確認ですけど、導入の検討をしてみたらどうだという意味でよろしいですね。そこ、はっきり。

【市長】　だから、また、あなたのストーリーの切取りのところに入れたいだけですよ。

【神奈川】　質問しているんです。それでいいのかどうか聞いているんです。

【市長】　何を？

【神奈川】　導入の検討をしてみたらどうかという意味合いでよろしいでしょうかという質問です。

【市長】　いや、この摘録のまま書いてください。私があるとき何て言ったのかなんて覚えてないんだから。だけど、摘録に「少し検討してみたらどうか」と書いてあるんだから、そういう趣旨なんですよと、これは摘録です。

【神奈川】　私もこれ、情報開示させてもらっているんですけれども、これを読んで

いくと、導入の検討をしてみたかどうかと読めるわけです。ただ、これは私の推測でしかないので確認しているわけです。

【市長】 いや、どっちでも一緒だと思うんですけど。

【神奈川】 まず、確認しているんです。導入の検討でよろしいでしょうか。

【市長】 また、そういうことを言うと、「はい」で、そういうふうになっちゃうから、もうそのまま言ってください。こういうふうに摘録に書いてあると書いてください。それでいいじゃないですか。

【神奈川】 それだけでは分からない部分があるので質問させていただいています。

【市長】 導入を検討するように指示したということを私が言えば、本当にそのまま言ったかのように言われて、何か変な話だから、言ったとおりです。摘録にこう書いてあると書いてください。

【神奈川】 では、どういう意味かは分からないということでよろしいんですか。

【市長】 どういう意味か分からない……。そのとおりですよ。少し検討してみたかどうか。だって、自分がこういう発言したかも覚えてないんですよ。

【神奈川】 記憶にないので、この発言の真意は分からない、覚えてないと。

【市長】 読んだとおりです。

【神奈川】 ですから、聞いているんです。いかがですか。

【市長】 だから、読んだとおりって言ってるじゃん。少し検討してみたかどうか書いてあるんだから、それ以外、私には記憶はないんだから、ここに、摘録に書いてあるまま、そのままですよ。それ以上それ以下でもない。

以上です。

【神奈川】 これ、記録を読んでどう思われますか、どういう意味だと思われますか。

【市長】 いや、一般的だと。

【神奈川】 いや、そうじゃなくて、今の質問の続きなんですけれども、流れを考えると、日本原料のシフォンK3システムの導入を検討してみたかどうかという意味合いに取れるんですけれども。

【市長】 まあ、そうですね。

【神奈川】 よろしいですかね。そういうふうに考えられると。

【市長】 導入のことって、事情がよく分かってない人間からすると、そういうふう言われて、実証やってみたんです、効果はいいんですよと言われて、なぜ導入に至らないんですかと聞いてみる、検討してみたというのは実に自然な流れだと思いますが。

【神奈川】 その「検討してみた」は、導入を検討してみたということですね。

【市長】 導入の可否ということではなくて、どういうことなのか少し検討してみたらというのは、何というんだらう、技術的に分からない話を導入しろとか導入しないと言うことってあり得ます？ それをイエスかノーか、買うのか買わないのかという話って、この技術が使えているのか使えてないのかどうなの？ ということって、普通聞きますよね、一般論として。

【神奈川】 はい。

【市長】 ですよ。

【神奈川】 はい。

【市長】 そういう意味です。

【神奈川】 それはつまり、導入を検討するということじゃないですか。導入するかどうか検討するということじゃないんですか。

【市長】 だから、導入を検討するという言い方をすると、あくまでも、すごく技術が分かっている、これは使えるものなんだけど、この会社のもを入れるかどうか検討するように聞こえるじゃないですか。でも、そうじゃないじゃないですか。だから、全く合わないから、私も全然勘違いしているから、これは勘違いじゃない、要は、結局使えなかったわけでしょ。

【神奈川】 はい。

【市長】 ですよ。

【神奈川】 はい。

【市長】 結局使えなかったから、導入に至らないわけ。理解しています？

【神奈川】 結果はまだいいです。この「検討する」は何を検討するって言っているのか、それを聞いているんです。

【市長】 いや、一緒の話ですよ。あなた、情報公開請求しているんだったら、見れば分かるじゃん。そのまま書きゃいいんですよ。

【神奈川】 どう書くかはこちらが考えることですので。

【市長】 どうぞ。

【神奈川】 質問に答えてください。

【市長】 何を。

【神奈川】 同じ質問です。

【市長】 もう一回言ってください。

【神奈川】 「検討してみたらどうか」というのは何を検討してみたらどうかということなんですよ。

【市長】 だから、この話が、要はニュアンスとしては、これが使えるかどうか検討してみるということを期待しているんでしょう。お答えになっていますか。

【神奈川】 いや、なってないんじゃないですか。

【市長】 あなたの期待する答えになってないだけじゃん。

【神奈川】 だから、ずばりお答えください。覚えてないなら覚えてない、分からないなら分からないでお答えください。

【市長】 だけど、繰り返しになりますけれども、9年前のこのメモを見て、ああ、こういうふうに言っていたんだという話で、そのときどう思っていたかというのを今言えって言えます？ あなた。言えません、私。だから、この摘録ですけれども、ニュアンスとしてこういうことなんだということなんでしょう。それ以上それ以下でもないと言っているのが私の答えです。

【神奈川】 詳しいことは分からないということですね。

【市長】 詳しいことってどういうこと？ だから、ここに書いてあるとおりの話の。

【神奈川】 何の検討なのかということに関しては分からないというお答えでよろしいですか。

【市長】 ここ自体がそもそも私、こう言ったかということ覚えてないんですから。

【神奈川】 だから、分からないというお答えでよろしいですか。

【市長】 分からないというと非常に無責任な言い方と捉えられるから嫌なんだけど、だから、このとおりで言っているんです。だから、どう書くかはあなたの判断なんですよ。どうぞ。

【神奈川】 まあ、いいです。分かりました。では、次。面会後の発言は誰に向けて発言したものなんでしょうか。

【市長】 分かりません。これ、記載がないので。

【神奈川】 事務方、分かりますか。少なくとも同席者ということは言えるんでしょうか。

【上下水道局】 上下水道局でございます。当日の上下水道局からの出席者はこの場におりませんので、誰に向けて発言されたかということは、上下水道局、分かりかねます。

以上でございます。

【神奈川】 経済労働局とかですよ、多分同席されているのは。この同席者に対する発言ということよろしいんでしょうか。

【経済労働局】 記録上、当時の経済労働局長、室長、課長、あと担当係長が同席していたという記録になってございます。

【神奈川】 ごめんなさい、今、ちょっと聞き取れなかったです。

【経済労働局】 当時の経済労働局長、国際経済推進室長、担当課長、担当係長が同席していたという記録になってございます。

【神奈川】 分かりました。上下水道局はいなかったんですかね。昨日、説明で同席していたということ……。

【上下水道局】 上下水道局でございますけれども、当日の場には、上下水道局から部長と係長、各1名ずつ同席はしております。

【神奈川】 同席したんですか。

【上下水道局】 はい。ただ、この場に同席した職員はいませんので、そのときの状況は分からないという発言をさせていただきました。

【神奈川】 最初はしてないとおっしゃってました。したということによろしいんですね。

【上下水道局】 ええ。2人出席しております。

【神奈川】 ごめんなさい、どういう立場か、もう一度、すいません。

【上下水道局】 部長級職員1人と係長級職員1人でございます。

【神奈川】 部長と係長ですね。

【市長】 えっ、同席者っているんですけどっけ、上下水道局で。

【上下水道局】 失礼しました。表敬終了後の話でございますか、上下水道がいたかどうか。

【神奈川】 面会の話です。

【上下水道局】 面会には、ですから、部長級と係長級がそれぞれ1人ずついたということなんです。

【神奈川】 ですね。分かりました。面会后、誰に向けた発言なのかは分からないということなんですけれども、恐らく同席した人であろうと。これは推測なので確認は必要なんですけれども、そういう状況です。このとき市長が、「少し検討してみたらどうか」って言ったことに対して、同席者は、同席者というか、この発言を聞いた職員はどう思ったのか。これは市長に聞いても分からないと思うので、調査でその辺は聞き取りできているんでしょうか。

【上下水道局】 上下水道局でございますけれども、ただいまの部分の調査についてはまだ行っておりません。

以上でございます。

【神奈川】 やる予定はあるのでしょうか。

【上下水道局】 今後、さらなるヒアリングについては検討してまいります。

【神奈川】 分かりました。そういう状況で、この面会、話はまだ続きがあるんですよ。市長が、三浦副市長にも話をしたほうがよいと言って、日本原料の社長は、その日のうちに三浦副市長にも面会していますよね。これは記録を読む限りだと、急遽実現したのかなとも読めるんですけども、その点、実際いかがですか。御記憶にありますか。

【市長】 いや、ないです。ただ、三浦副市長の予定が急遽実現するという事は普通あり得ないんじゃないかなと思います。

【神奈川】 もともと予定が入っていた。

【市長】 いや、一般論としてですよ。副市長、忙しいので。いや、この当時はどうか分からないですよ。

【神奈川】 一般論は結構です。

【市長】 でも、記録とすれば、こうなったとき、表敬終了後、三浦副市長にも表敬訪問って書いてあるので、恐らく連続してアポを取っていたんじゃないのという感じですよ。と見るのが普通かなと思います。

【神奈川】 今回、このケースではどうだったかというのは分からないですかね。

【市長】 うん、分からない。

【神奈川】 そうすると、そういう状況の中で、ここで大事なものは、市長の「少し検討してみてはどうか」という発言を周りの職員たちがどう受け取ったかということも重要になってくると思うんですけども、ここはヒアリングできてないということなので今は何とも言えないんですが、これ、市長の発言ですから、しかも、三浦副市長にも話をしたほうがいって、市長が話を前に進めている、ルールを敷いているとも受け取れるわけですよ。職員がそれをどう感じたか。これは、市長は指示はしてないとおっしゃるかもしれませんが、これは購入に向けて話が進んでいるんだなと受け取った可能性だってあると思うんです。これは聞き取りしてみないと分かりません。ただ、そういう可能性がある中で、市長の発言が発端となってモバイルシフォンタンクにつながったんじゃないかという疑惑は晴れないと思うんですけども。

【市長】 恐ろしい想像力ですよ。というか、そもそも2つ、全く違う製品の仕組みに関わらず、もともと変なメモが出てきた。ものすごく不正確なメモに基づいて、あなたはストーリーを展開しているから、そう読めるんでしょう。

【神奈川】 分かりました。

【市長】 ちょっと聞いてください。付度だとか、受け止め方がどうのこうのという話をしていますけれども、私の話というのは、シフォンK3システム、この話をしているんでしょ。そうですね。

【神奈川】 今はそうです。

【市長】 そうですね。シフォンK3システムの話をして、導入の検討みたいな話が、導入の検討というか、これって使えるのか使えないのかという検討を指示して、指示したというか、こういうふうに聞いてみると言ったときに、結局は採用されてないんです。以上、終了ですよ。

【神奈川】 分かりました。

【市長】 ちょっと聞いてください。聞いてください。ねえ。それが何でモバイルなんちゃらという生田に入ったものをつながるんですか。それ、関係ないじゃないですか。

【神奈川】 分かりました。

【市長】 そういう間違った明らかに変なメモみたいなのが出てきて、それが事実と異なることばかりのメモを基にして、そういうストーリーをつくっていくわけでしょう。そこに当てはめる話を聞き出して、ストーリー展開していくというやり方って、本当にどうなの？

【神奈川】 分かりました。

【市長】 分かってないよね。

【神奈川】 このメモの内容なんですけれども、果たしてそんなでたらめと言えるんでしょうか。というのも、まず、長沢浄水場で実験をしていた。確かにメモには、モバイルシフォンタンクの実験をしていたと書かれています。これは違うと。

【市長】 違います。

【神奈川】 シフォンK3だと。

【市長】 はい。類似品でもないんですよ。用途が違うんですよ。

【神奈川】 それは分かりました。その後、日本原料の社長が市長に泣きついた。この泣きついたという部分なんですけれども、これはもしかしたら平成26年4月の面会のことを指しているんじゃないんですかね。まさに齋藤社長は、実験をやったにもかかわらず装置が導入されなかった、導入してくれって、もうストレートに言っているわけですよ。営業をかけているわけですよ。それに対して市長も、上下水道管理者に話をしてみるとまで言っているんです。これは、導入に向けて話が進んだと受け取

られてもおかしくないと思います。メモには、市長に泣きついて……。

【市長】 違う仕組みの話を1つの話にしていてしか思えません。

【神奈川】 いや、本当にでたらめだと思いますか、これだけの状況があつて。

【市長】 全くでたらめでしょう。

【神奈川】 市長に泣きついているし、市長は前向きに受け止めている。結果、モバイルシフォンタンクが買われている。

【市長】 実際に採用されてないんですよ。採用されてないんです。事実じゃないですか。

【神奈川】 シフォンK3は採用されてない。それは私も確認した。ただ……。

【市長】 私、モバイルなんちゃらシステムの話は知らんのですよ。知らないのをどうやって導入を指示するんですか。

【神奈川】 聞いてください、市長。シフォンK3システムが現在も導入されてない。だからこそ、モバイルシフォンタンクにつながった可能性があるんじゃないですかって聞いているんです。そういう話なんです。なぜなら、齋藤社長は面会の際に、地元の企業ということアピールして、応援してくださいというような話をしているわけですよ。シフォンK3システムに関しては市の都合で導入できなかったけれども、じゃ、地元の企業だから応援してあげようということでモバイルシフォンタンクの購入につながった、こういう可能性は否定できないんじゃないですか。いかがですか。

【市長】 いや、モバイルシフォンシステムはシフォンシステムとして必要な理由があつて、それについて導入を検討して、他社との比較をしていると聞いています。他社との比較をしたものというのは、私も資料で見ました。だから、皆さんに公開すればいいと思います。どういうふうに比較したのかと。だから、やっているんですよ、それはそれで。

【神奈川】 質問に答えてください。

【市長】 だから、ここの2つの話を物すごくつなげようとするけれども、全然違う話ですよ。

【神奈川】 分かりました。じゃ、その話をしましょうか。砂ろ過装置と膜ろ過装置の比較の話ですよ、恐らく。昨日、それ、上野道局から説明ありましたけれども、残っている資料が結果の資料しかないらしいんです。よろしいですか。市長も同じ認識ですか。

【市長】 分かりません、それは。

【神奈川】 要は、両方の装置に関してメリットが書かれていて、モバイルシフォン

タンクのほうが優位ですよというようなことが書かれているみたいなんです。その資料しかないんです。その前の、どういう議論を経てモバイルシフォンタンクになったのかという資料はないんだそうです。結果しか分かってないんです。この状況を見ると、もしかしたら議論もなく、日本原料ありきでモバイルシフォンタンクに決まっている可能性があるわけです。これ、否定できますか、この状況で。お答えください。

【市長】 どの状況で？

【神奈川】 今説明した状況です。議論の経過が示された資料がないんです。議論の経過が記された資料がなくて、モバイルシフォンタンクが優位ですよということを示す資料だけが残っている。

【市長】 ちょっと待ってください。私が、シフォンK3システムというのを、これって使えるか使えないか検討してみたという話、この一言が全く別の仕組みの装置の導入につながるんですか。

【神奈川】 今、市長の話に付き合っって質問を変えているんですけども、まず、お答えください。質問に答えてください。

【市長】 何を聞いているのかも分からないけど。分かります？ 皆さん。

【神奈川】 砂ろ過と膜ろ過の比較は御認識ありますか。

【市長】 ないです、正直。

【神奈川】 だから、今おっしゃったやつですよ。

【市長】 製品を並べて比較しているんでしょう。

【神奈川】 比較した資料。

【市長】 それは見ました。

【神奈川】 それは、言ってみれば結果の資料なんですよ。よろしいですか。

【市長】 はい。

【神奈川】 異論ないですか。

【市長】 と思います。

【神奈川】 どういう議論を経て、モバイルシフォンタンクが優位と評価されたのか、この部分が議論の経過に関しては資料がないんです。この状況、どう思われますか。

【市長】 いや、分かりません。

【神奈川】 日本原料ありきで判断されたという可能性は否定できないと思うんですよ。

【市長】 いや……。

【神奈川】 否定できるかどうか、どう思われますか。

【市長】 正直、どういうふうに上下水道局で議論されたのか私は分かりません。

【神奈川】 まず、この状況をどう思われますかって聞いているんです。議論の経過がなくて結果の資料だけある、これは、結果ありきで話が進んだ可能性は否定できないんじゃないですかって聞いている。

【市長】 いや、分かりません。上下水道局がどういう検討をして、どういうメモを取っていたのかなんて、そんなの私、知る余地もないですから。

【神奈川】 今状況をお伝えしたので、そういう状況を踏まえて、市長はどういうふうに思われますか。

【市長】 上下水道局から詳しい話を聞きます。

【神奈川】 分かりました。状況を見れば、結果ありきで進んだ可能性は否定できない状況だと思います。

【市長】 どう思います？ 本当に。

【神奈川】 確かに、議論に関する資料は廃棄された可能性もあるとは思いますが。

【市長】 何を？

【神奈川】 資料が廃棄されている可能性もあると思います。それも可能性としては捨て切れなと思います。だから、分からないんです。ただ、資料がないので、議論がされたかどうか分からないんです。どういう議論があったか分からないんです。この状況をどう思われますか。じゃ、もっと言います。これ、公金が支出されているわけですよ、モバイルシフォンタンクの購入に関して。

【市長】 当然です。

【神奈川】 このモバイルシフォンタンクがどういうところから出てきて、どういう議論を経て決まっていたのかということが結果しか分からなくて、詳しい経緯が説明できない状況なんです、今、資料がないので。よろしいですね。

【市長】 よろしいかどうかというのは、事実関係をちゃんと確認します。

【神奈川】 公金の支出に関して……。

【市長】 いや、あなたの言っている主張だけしか聞いてないから、まず……。

【神奈川】 主張じゃないです。これ、今、事実として間違いありますか。議論に関する資料もなくて、結果だけある。

【上下水道局】 上下水道局です。議論というのは、どの程度を指すのかは分からないんですけれども、検討した資料は、昨日もお話ししたとおりに残っていますので……。

【神奈川】 検討したって、つまり、砂ろ過装置、モバイルシフォンタンクの優位性を示す資料ですか。ほかにもいろいろ書いてあるんでしょうか。議論の経過が分かる

ものはあるんですか。

【上下水道局】 議論というか、膜ろ過装置とモバイルシフォンタンクを比べて、どちらがどう優位かというところで、その優位性を見て設置場所を決めているという話です。

【神奈川】 つまり、モバイルシフォンタンクが優位ですよということが説明された資料ということですよ。どこからモバイルシフォンタンクが出てきて、どういう議論を経て決まっていたのかという、ここは分かるんですか。

【上下水道局】 その会議資料というのは残ってないですけども、全体には請願の資料があって、膜ろ過とモバイルシフォンタンクのどちらも優位性もありますので、膜ろ過の優位なところは膜ろ過を使う、モバイルシフォンタンクが優良なところはモバイルシフォンタンクを使う、そういう比較になっております。

【神奈川】 つまり、結果しか分からないということですよ。

【上下水道局】 今残っている資料としては、途中の会議の資料というのはいないです。

【神奈川】 ないですよ。という状況なんです。これ、公金が支出されていて、にもかかわらず、どういう議論を経て決まっていたかというのはいらないんです。これ、市民にどう説明するんですか。

【市長】 いや、比較検討しているんでしょう。議論して、その資料も残っているんですよ。

【上下水道局】 はい。

【神奈川】 議論の経過はないんですよ。

【上下水道局】 比較検討して、その後、28年の委託発注まで課題を含めて整理をしておりますので、そして委託発注をして、委託の中でも、モバイルシフォンタンクの妥当性を検証した上で、最終的な発注という形になっております。

以上になります。

【神奈川】 それ、話が先に進んじゃったんですけど、平成26年度に作られた比較の資料があるわけですよ。ここで既に、モバイルシフォンタンクが優位だということが示されているわけですよ。その次に、平成28年4月に詳細設計の仕様書にモバイルシフォンタンクの仕様が書かれているということですよ。今、議論したというのは、比較資料が作成された後の話をされていると思うんですけども、その前の話を聞いているんですけど、それは先ほどないという回答でしたよね。いいんですよ、それで。だから、どこからモバイルシフォンタンクが出てきたのか、よく分からないんですよ。もう既に平成26年度の比較資料では、モバイルシフォンタンクとい

うことで、もう方向性が決まっているんですよ。だから、その前の議論がどうだったのかというのは重要だと思うんですけども、それに関して市民に説明できるんですか、どこから出てきて、どんな議論を経て決まっていたのか。この状況を踏まえていかがですか、市長。

【市長】 だから、今話したとおりの、さく井をどうやって利用するかというのがあって、どういう課題があって、それを処理するための装置というのはどういう方法があって、こういう装置があって、それを比較した結果、こっちになりましたというのが説明できるというのは、何がおかしいんですか。

【神奈川】 説明できるんですか。議論の経過が分からないんですよ。今、市長がおっしゃったのは、モバイルシフォンタンクと方向性が決まってからの話じゃないですか。これをどう運用するかという話じゃないですか。もう既に決まっちゃっているじゃないですか、その時点でモバイルシフォンタンクだって。だから、その前の議論がどうだったのかということを行っているんです。それが分からないんです。

【市長】 だから、さっき言ったとおり、どんな議論があったか、ちょっと聞きますよ。

【神奈川】 分からないって言っているんです、事務方は。

【市長】 議論はやっているって言っているじゃないですか。

【神奈川】 どんな議論があったか分かるんですか。ちゃんとおっしゃってください。市長がここまで言っているんだから。話、進まないんだから。

【上下水道局】 上下水道局です。検討した資料はきちっと残っていますし……。

【神奈川】 検討じゃない。議論の経過は分かるんですかって聞いているんです。

【上下水道局】 市長がお話ししたとおり、さく井の水を使う上で水質の課題がありますので、それに向けて解決する中で決めているというようになっています。

【神奈川】 どういう議論があったかというのが分かるんですか。ごまかさないでください。大事な部分なので。市民に説明できるんですか。モバイルシフォンタンクがどういうところから出てきて、どういう議論を経て決まったのかって説明できるんですか、ちゃんと。

【上下水道局】 この間も環境委員会等でも説明していますけれども、水質の課題に対して、砂ろ過、消毒が必要だということから来ていますので、その延長線上だと考えております。

以上です。

【神奈川】 じゃ、砂ろ過イコールモバイルシフォンタンクなんですか。

【上下水道局】そこはあれですけども、基本的に可搬式で、しかも半永久的に使えるというモバイルシフォンの技術、そこの特許性を考えると、特許があるか分からないところですけども、技術など、維持管理なども含めてモバイルシフォンタンクとしたものでございますので、そういう技術があるところは我々としてはほかに把握してないところでございます。

【神奈川】そういう評価というのはどこに記されているんですか。過去の資料にあるんですか。

【上下水道局】もう一度お願いします。

【神奈川】モバイルシフォンタンクの評価に関する記述は資料に残っているんでしょうか。失礼な話ですけど、それっていくらでも後づけできる話じゃないですか。ちゃんと議論を経て、そういう結論に至ったんだということを証明できるんですか。

【上下水道局】上下水道局ですけども、先ほど申し上げました比較検討の中で、優位性というところは比較していますので、モバイルシフォンタンクの技術の中の優位性を含めて検討しているところでございます。

以上になります。

【東京（幹事社）】市長、この後、表敬訪問あると思うんですけど、会見自体は何時まで可能なか確認してもよろしいでしょうか。もし神奈川さんがよければ、他社さんにも質問の希望があるか確認して……。

【神奈川】ああ、そうですね。失礼しました。

【東京（幹事社）】他社さんの質問、一定終わってから、また神奈川さん、まだあると思うので。

《オーストラリア・ヴィクトリア州訪問について》

【朝日】朝日新聞でございます。オーストラリア出張についての所感と今後の水素戦略について、活用すべき点があれば教えていただけますか。

【市長】今回、川崎重工さんと連携協定を結ばせていただいたことによって、川崎重工さんの仲介によって、今回、ヘイスティングス港と褐炭の採掘場、水素が作られるところの現場を視察させていただきました。それと、大変意義深かったのは、日豪の経済共同委員会という場に参加させていただいたことによって、いろんな関係者とお話もできましたし、いわゆる水素のサプライチェーン全体の姿を確認することができましたし、当該のビクトリア州をはじめ、当該両市長とも共同声明を発表することができたことは意義深かったと思っています。

《浄水装置の導入について》

【NHK】 NHKです。K3の話に戻っちゃうんですけども、平成26年4月の表敬訪問の後に、上下水道局の局長と部長と係長がK3の実証実験から、結局導入しなかった経緯について市長に説明に行ったと。市長の御理解を得たというような説明を昨日、記者会見でしていたんです。昔の話で覚えてないかもしれないですけども、どんな説明を受けてどういうふうに理解したかというのは覚えていらっしゃいますか。

【市長】 いや、それ自体、全く覚えておりません。導入断念ということも聞いたかどうかとも記憶にないですし、説明を受けたと言われても、そんなのあったかねという感じですので、申し訳ありません、それぐらいの認識です。

【NHK】 ありがとうございます。

【毎日】 すいません、今のに関連して毎日です。昨日の説明だと、市長に説明して理解を得たと言っていますけど。

【市長】 ということなんでしょうね。

【毎日】 だけど、覚えてはいらっしゃらない。

【市長】 覚えてないです。

【毎日】 どういうやり取りがあったか、自分がどう判断したかも覚えてない。

【市長】 はい。

【毎日】 理解はしたというのは、つまり、K3導入断念について、ああ、そういうことなのね、分かりましたというような。

【市長】 そういうことなんでしょうね。だから、理解を得たということは、多分報告されて、ああ、そうなんですかということなんだと思います。これも非常に一般的な話です。いろんな技術のことが提案されて、こういうのはどうなのと言って、いや、これ、うちのところでは全くシステムとして合いません、ああ、そうなのという。一連の流れなので、日常茶飯事的にある会話の一つなので特に記憶もしておりません。

【毎日】 モバイルシフォンタンクを含め、競合製品というか、候補製品というか、それを上下水道局で検討されて、こういう形になったという説明ですけども、それについては、市長、話を聞くとおっしゃっていましたが、聞かれた話の結果、つまり、どういう議論が、砂ろ過装置というものが必要であろうというようなところに至ったのかという結果は何らかの形で公表していただけるのでしょうか。

【市長】 はい。いわゆる今の議論の話ですよ、その比較をしたというふうな。

【毎日】 そうです。至る前のですよ。

【市長】 はい。資料として提出すべきだと思いますし、させていただきたいと思えます。

【毎日】 ありがとうございます。

【神奈川】 よろしいでしょうか。

【市長】 どうぞ。

【神奈川】 平成26年の面会后に上下水道管理者に話をしてみると、面会でそうおっしゃっていて、実際に話をしたかとか、どんな話をしたかということは覚えていらっしゃらない。

【市長】 覚えてないので、元上下水道管理者に聞き取りをしてくれという話はしました。

【神奈川】 分かりました。それと、先ほどの議論の過程もそうですし、結構不透明な部分があるなと個人的には思っています。上下水道局（※補記）は、市長の指示はなかったともう結論づけているわけなんですけれども、市長もおっしゃるように、まだ調査する部分は残っている。にもかかわらず、指示はなかったと断定するのは早計ではないですか。

【市長】 というか、私、指示していませんもん、明らかに。

【神奈川】 覚えてない部分もありますよね。

【市長】 えっ？

【神奈川】 だから、上下水道管理者にどんな話をしたのかということは覚えてないというお話だったじゃないですか。

【市長】 というか、技術的なことが分からない人間が、これを買えとか導入しろと言うことってあり得ますか、一般的に考えて。言ったとしても、絶対局はそんなことあり得ないですから。

【神奈川】 一般論は聞いてないです。

【市長】 いやいや、よく考えてください。メモの発端は、要は必要ないものを、メーカーさんがごねて、市長に泣きついて、そして私が必要もないものかもしれないけれども買ってやれと言ったとメモに書いてあったのが発端ですよ。ねえ。これ、全部メモ自体も認識が間違っていますし、技術が分からない者が、これを買えと言うこと、あり得ますか。そして、そんなことが導入可能だと思いますか。絶対にあり得ないです。合理性のないものを入れるはずがないし、入れられないです。こんなことは、もう誰が見ても明らか。こんな簡単な話ですよ。例えば全く同じ製品で、AかBかどっちも一緒という話であれば、こっちのほうがいいんじゃないかとかという話がまだあるかもしれませんよ。だけど、求められる技術が決まっていて、それについて必要なものを買えと言ったって買うはずがないじゃないですか、誰がそんなこと。そんな

ことは世の中であり得ないでしょう、行政として。絶対にあり得ない。誰がどういうふうに見ると指示したとしても、合理的な判断は必ずします。それが行政です。

【神奈川】 通常はそうだと思います。今回はどうだったんでしょうかという話なんですけど。

【市長】 私が指示していませんし、そんなことあり得ない。

【神奈川】 まあ、いいです。指示しているかどうかは調査しているところなので。

【市長】 違う違う。指示したということから始まっているんでしょ、この話。

【神奈川】 話、すり替えないでください。

【市長】 すり替えてない。あなたがおかしい。市長が指示をしたというメモから始まっているんでしょ。

【神奈川】 では、聞きます。上下水道管理者には指示はしてないんですか。

【市長】 するはずがありません。

【神奈川】 それはもうはっきり言えるんですか。

【市長】 あり得ません。あり得ない。

【神奈川】 してないということ。

【市長】 していません。あり得ない話です、これを導入してくれなんて。そもそも技術的に分からない15分間で聞いた話。15分間のうち、ほとんどが海外の説明ですから、2、3分で聞いた話を、私たち、こういうのを導入しているんですけども、長沢浄水場で使ってくれないんですかねと言われた話を、ああ、そうなんですか、聞いてみます、はい、駄目ですという話で導入されなかつただけでしょうって。それが何でこんな話になっているのというのは。

【神奈川】 そんな淡白じゃないと思いますけどね。上下水道管理者にも話をしてみると言っていて、副市長にも話をしてみてはとあって、面会で検討してきてはとも言っている。

【市長】 いやいや、結構ある話ですよ。

【神奈川】 分かりました。

【市長】 御社からの依頼も結構ある話ですよ。

【神奈川】 それは関係ないです。

【市長】 いや、そういうことですよ、一般的なこととしてあり得るんですよ。神奈川新聞社からの話というのも、僕に言われた話を、副市長とか担当の局長にも伝えておいて、導入可能かどうかやってみて、検討してみて、ある話ですよ。一般的な普通にある話です。よく社長に聞いてみてください。よくある話ですよ、おたくの会社で

も。

【神奈川】 上下水道管理者に面会后、話はしたということですか。

【市長】 いや、覚えていません。

【神奈川】 指示してないっておっしゃったじゃないですか。

【市長】 えっ？ するはずがないって言いました。

【神奈川】 それはもう推測でじゃないですか。

【市長】 推測って……。

【神奈川】 御自身のことなので。

【市長】 とにかく、元上下水道管理者にはヒアリングをしてとは言いました。

【神奈川】 ですよ。なぜか。市長、覚えてないからですよ。御自身でそうおっしゃいましたよね。

【市長】 だから、念のため、昨日の会見で、上下水道管理者にも聞くべきなんじゃないですかという話も皆さんから出たという話を聞きました。だから、そりゃそうじゃないのと、聞いたらどうと。私は何もやましいこともないから、どうぞ皆さん聞いたらどうという話ですよ。

【神奈川】 だけど、上下水道管理者にどんな話をしたかというのは覚えてないんですよ。

【市長】 ただ、あなたの言ったとおり……。

【神奈川】 教えてください。質問しているんです。覚えてないんですよ。

【市長】 上下水道管理者にどういうふうに言ったかというの、そういうふうに聞いたかどうか覚えていません。ただ、先ほど情報公開請求でされたように、そういうメモが残っている限り、蓋然性から考えてそういうふうに言ったんでしょう。上下水道管理者にも言っておくとやったんでしょう、言葉尻は別にして。そういうふうに言ったんだということがあったとすれば、何かしらのことは言っているんじゃないでしょうか。

【神奈川】 その後、実際に管理者に話をしたかどうかは覚えていないということですよ。よろしいですか。

【市長】 そうです。

【神奈川】 覚えてない。

【市長】 はい、覚えてないです。

【神奈川】 だから、調査するわけですね。

【司会】 すみません、お時間の関係で3時まで。

【神奈川】 じゃ、最後、すみません。覚えてないことがあるのであれば、市長、ここで指示はしてないということは断定できないんですよね。だから、この調査結果は取り下げるべきだと思うんですけど。

【市長】 いや、そんなことはあり得ないと言っている。あり得ない話をあたかも、その可能性があるようなことを言いたくないというだけです。そんなことが一般論として私からしても絶対にあり得ない話。

【神奈川】 普通に考えて、調査し切れてないのに、指示がなかったって断定するのはおかしいと思います。早計です。これ、取り下げるべきだと思っています。いかがですか。

【市長】 あり得ない。

【神奈川】 なぜあり得ないんでしょうか。

【市長】 私、言わない、そんなものは。言うなんていうこと、考えられないものを可能性があるとも言いたくない。あなたの文章だと、可能性があるなんて書いちゃうから。言ったかみたいなお話になっちゃうでしょう。

【神奈川】 ありがとうございます。

【司会】 それでは、よろしいですかね。御質問、よろしいですか。

それでは、以上をもちまして、本日の市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355